

中央防波堤埋立地の鳥について(第1回)

三間 久豊



東京都は、廃棄物等処理や建設残土等の処分を目的に、東京湾で埋立て工事を行っています。

その区域で水鳥類の調査を主たる目的として、都から許可を得てカウント調査を続けてきています。

中でもシギ・チドリ類に関しては、環境省が進めるボランティア調査「モニタリング1000」の一つとして参加しています。2005～2009年の5年間については、2010年にユリカモメ誌に報告をしました。〔三間 2010〕

今回は2010年から2015年までの調査について数回に分けて報告します。

1. 調査概要

年間の調査回数、記録した種類数およびその内訳は下表の通りです。

調査年	調査回数	総種類数	シギ・チドリ	ガンカモ	タカ類
2010	37	108	30	13	7
2011	40	114	30	14	9
2012	37	111	29	16	8
2013	37	110	27	15	9
2014	30	114	29	17	6
2015	35	117	32	15	9

(単位：種)

調査回数は2002年以降継続的に30回前後以上をキープしてきています。

年間の確認総種類数は下のグラフの通りで、近年漸増傾向にあります。これは埋立地の拡大とともに、灌木林が形成されてきたなど、環境の多様化に伴う増加と考えられます。



1996年以降当地区で確認した総種類数は177種となりました。そのほか外来種3種、籠脱け種2種を加えると182種となります。

今回は、当調査活動の中心であるシギ・チドリについて報告します。

写真 中防のシギ・チドリ (撮影年月日)

- ①シロチドリの雄若鳥(2015.11.29)
- ②親子のシロチドリ(2010.7.25)
- ③フラッグをつけたタウンネン(2012.5.13)

